

★もう一度「新しい戦前」を考える

・一年前、この行進で「新しい戦前」と題しこの国が戦争に傾斜して行く不穏な動きに警鐘を鳴らしました。その後一年、何が変わったのだろうか？

今年もエアフェスタが行われる

- ◆六十年前の十一月、この浜松市で戦車など約百台が公道を行進し、空には戦闘機四十五機が乱舞する大軍事パレードが行われました。その年のオリンピックク聖火ランナー見物以上の観客があつたと当時の新聞記事にあります(中日新聞)。
- ◆その後、この常軌を逸した催しは姿を消しましたが、それに代わって「娯楽」という姿を装って、航空自衛隊の技術水準を誇示するエアフェスタが行われる様になり、今年も開催予定です。これも新しい戦前の姿ではないですか。

辺野古新基地建設、米軍幹部もサジを投げた

- ◆一方、国は台湾有事を煽り鹿児島南から与那国島に至る南西諸島に、中国本土にまで届くミサイルの基地を建設しています。戦争の準備です。
- ◆そして「戦争準備」かつ税金の無駄遣いの最たるものとして沖縄辺野古の新基地建設が続いています。
- ◆辺野古新基地は普天間基地の代替と言われますが、完成しても普天間に比べ滑走路が九百メートルも短く使いものにならないと在沖繩米軍幹部が言っていることが明らかにになりました。工事も完成は難しいと見ているとのことです。(辺野古移設は最悪のシナリオ) 在沖繩米軍幹部の語った本音(朝日新聞8月26日記事)

国民は憲法改正には関心が無い

- ◆今自民党の党首選挙で沸いていますが一審議論してほしいテーマを国民に聞くと経済・社会保障が53%、憲法改正はたった3%です。(8月5日 NHK)
- ◆戦争で国際間のもめ事を解決できると信じる人たちもこの現実を知っています。そこで戦争の出来る国にするため、憲法の条文改正を一旦横に置いて解釈で戦争の出来る国にしようという方針を変えました。
- ◆それが2015年の安倍政権による「集団的自衛権」の解釈変更(閣議決定)、2022年の岸田政権による「安保3文書」閣議決定です。いずれも、国民の意思を問うことなく閣議で決定しました。
- ◆一方、国民は物価高に苦しんでいます。そんなとき憲法を変えて戦争の出来る国にしようとする政権の意図は全くピンと外れです。「新しい戦前」が現実とならぬよう、しっかりと国の行方を監視しよう！

二〇二四年九月八日(日)護憲平和行進(通算六九一回目)
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中央区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



日本国憲法 第二章 戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。